

施策	51	緑の保全と創出	政策	5	人の営みと自然・環境が調和したまちづくり
施策主管課	林務課	課長名	和泉忠志	内線	4860
政策担当部長名	市民協働環境部長 竹前雅夫				
施策関係課名	林務課、環境課、管理課				
重点施策	関連計画	飯田市森林整備計画、21世紀いいだ環境プラン、環境モデル都市行動計画、飯伊地域林業将来ビジョン			

1 施策の目的

目的	対象	市内の緑(森林・動植物) 生活環境 は対象指標は同一
	意図	水や緑が保全、再生されて増える。

2 現状把握

(1)対象指標、成果指標の状況

対象指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	見込み 28年度
市域面積		km2	658.76	658.73	658.73	658.73	658.73	658.66	658.66 658.73
成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標 28年度
成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理									
森林面積		ha	55,766.0	55,724.4	55,740.0	55,740.0	55,627.0	55,627.0	55,540.0
森林の間伐面積		ha	-	558.44 739.68	648.22	430.99 422.99	420.76 411.76	318.47	366.0 574.0
森林の間伐面積のうち搬出間伐面積		ha	-	28.87	51.78	156.53	77.51	71.62	165.0 52.0
搬出間伐の割合		%	-	5.2 3.9	8.0	36.3 37.0	18.4 48.8	22.5	45.1 9.0
松川中流域で発見される水質階級の指標生物の割合		%	-	72.0	75.0	66.7	71.4	75.0	75.0
全市一斉河川美化活動に参加した世帯の割合		%	-	77.9	68.7	68.0	65.6	67.5	78.0

(2)成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	23年度 実績	24年度	25年度	26年度	目標 28年度
行政	適正な森林の管理及び整備の啓発活動と補助施策等の普及啓発 市民の参加(財産区等が行う間伐作業等への協力)ボランティア養成(県林業総合センター林業作業体験講座) 里山の適正管理の啓発活動 水質保全対策の実施 家や周辺の美化と緑化の啓発	地区懇談会等説明会の参加者数	229	208	191	222	250
		参加した市民養成したボランティアの数(延べ)	1468 838	1570 726	1579 878	1,573	1600 600
		育樹祭等、里山整備の体験実習交流事業の実施回数(回)	4	4	4	4	6
		下水道施設の普及率(下水道本管布設)	95.0	96.0	96.7	96.8	100
		河川の水質目標の達成率	81.8	80.0	75.0	67.5	90.0

主体		役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項
市民等	個人(森林所有者)	・適正な所有森林の管理及び整備 ・山腹崩壊等の情報提供	・森林整備実施面積	・絶滅危惧種希少野生植物保護のための防護柵設置・修繕へのボランティア参加 ・全市一斉河川美化活動に市民参加(約5割の世帯が参加) ・天竜川の環境美化活動へのボランティア参加
	個人(ボランティア)	・森林整備への参加協力	・森林整備への参加協力数	
	市民団体(自然保護団体)	・自然に関する研究、啓発	・団体数、活動数、参加者数	
	市民(個人)	・汚濁水を流さない ・家や周辺の美化と緑化を行う	・水洗化率 ・家や周辺の美化と緑化をしている市民の割合	
	地域団体	・地域の公共空間の美化と緑化	・美化緑化活動の回数 ・美化緑化活動への参加者数	

3 平成26年度の評価結果

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

計画どおり取り組めた
おおむね計画どおり
あまり取り組みなかった
達成できなかった

(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

進んだ
ある程度進んだ
あまり進まなかった
進まなかった

4 平成26年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

・間伐面積は降雪の影響で減少したものの、搬出間伐の割合は増加に転じた。間伐作業自体が天候に大きく左右され、安定的に搬出できなかった。

・河川水質については、下水道の整備に伴い指標は向上している。緑地保全へのボランティアの取り組みは定着している。

・搬出間伐の面積が減少傾向にあり課題があるものの、貴重な動植物群落の保全、環境調査員の育成、公共施設の緑化等については進んでいることから、施策全体としては「ある程度進んだ」と評価した。

【事務事業群テーマ別の評価】

< 貴重な植物群落の保全 >

・ボランティア活動として、長野県の絶滅危惧種である「ヤシャイノデ」を地元の公園内へ植栽した。

・長野県天然記念物である「ギフチョウ」の保全に竜丘自治振興センター・竜丘公民館と協力して取り組んだ。

< 環境調査員の育成 >

・専門分野の方を講師に招き、環境調査員(環境チェッカー)の育成・レベルアップを図った。

< 里山・市有林等の保全 >

・間伐の補助事業の必須条件である森林経営計画の策定と施業の集約化を進めた。

・長野県森林づくり県民税を活用し、集落周辺の里山を整備することで、住環境の改善と景観対策を行った。

・里山を保全し鳥獣被害に歯止めをかけるため、森林と農地の境界周辺の藪払いや除間伐を行い、有害鳥獣が農地に近づきにくい環境づくりを行った。

< 崩壊地等の復旧 >

・治山工事で必要な進入路となる林道の改良工事を行い、民有林は県による施工、松川入りにおいては国の直轄工事により対処した。

< 市内公共施設の緑化 >

・市民の協力で成り立っている「緑の募金」の還元金を利用し、全市内の公共施設の環境緑化を推進した。

・市有地を含めた緑地において、自治会等によるアメシロ共同防除に防除車を貸し出し、緑地の保全を図った。

< ボランティアの育成 >

・天竜川ほか河川等の環境美化活動においては、毎年多くの市民の方や、多様なボランティア、団体の皆さんが出発して対応して頂いている。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

< 貴重な植物群落の保全 >

・生物多様性自治体ネットワークを活用した情報収集、発信に努める。

< 環境調査員の育成 >

・専門分野の方を講師に招き、環境調査員(環境チェッカー)の育成・レベルアップを図る。

< 里山・市有林等の保全 >

・森林所有者にお金が返るよう森林経営計画を積極的に進め、間伐を後押しする環境づくりを行うとともに、当該制度の理解促進を図る。
・引き続き、長野県森林づくり県民税を活用し、里山整備が継続できるよう県へ要望していく。
・森林を適正に管理し荒廃させないため、林業の6次産業化が図られるよう関係者等によるアクションプログラムづくりに着手する。

< 崩壊地等の復旧 >

・治山事業の導入については、国及び県と連携し、現場の状況に即して対処していく。

< 市内公共施設の緑化 >

・緑の募金の還元金を積極的に活用し、アメシロ共同防除に防除車を貸し出し、緑地の保全を図る。

< ボランティアの育成 >

・河川の美化活動については、現在までのボランティアと協働して取り組む。水辺等美化活動については、実績を踏まえ、形態等を検討する。

6 平成26年度事務事業 施策系統図

目標 施策5-1

対象
市内の緑
生活環境

意図
水や緑が保全、再生され
増える

成果指標

森林面積

森林の間伐面積

森林の間伐面積のうち
搬出間伐面積

搬出間伐の割合

松川中流域で発見
される水質階級
の指標生物の割合

全市一斉河川美化
活動に参加した世帯
の割合

貴重な植物群落の保全

環境調査員の育成

里山・市有林等の保全

崩壊地等の復旧

市内公共施設の緑化

ボランティアの育成

事務事業

生物多様性保全事業

みどりの景観整備事業

みんなで支える里山整備事業

森林づくり推進支援金事業

間伐促進対策事業

豊川水源林対策事業(上村・南信濃)

治山関連事業

直轄治山環境整備事業

アメリロ対策事業

緑の募金還元金事業

天竜川環境美化活動負担金

水辺等美化活動事業